



—東地中海地域ニュース—

トルコ：トルコ・シリア・ヨルダン・レバノン経済共同体構想 (6月10日付現地紙)

10日付現地紙（インターネット版）は、トルコ・シリア・ヨルダン・レバノン経済共同体構想について報じている。概要は以下のとおり。

1. 10日、イスタンブルで行われたトルコ・アラブ協力フォーラム第3回外相会合において、「トルコ・シリア・ヨルダン・レバノン・ハイレベル協力理事会の設立に関する共同政治宣言」が署名された。
2. 同宣言に基づき、今後閣僚レベルで開かれるハイレベル協力理事会は、4カ国の自由経済地域化および域内査証免除化、エネルギー、貿易、運輸通信、税関、農業、保健、内務、水資源、環境その他の可能な分野における協力に関し、議論を進めていくことになる。
3. トルコはすでにシリア、ヨルダン、レバノン、との間で査証免除協定を有しており、自由貿易協定はシリアおよびヨルダンとは締結済み、レバノンとも交渉中である。今回の構想は、これらを含む関係国間の二国間合意の枠組みを多国間でさらに発展させるものである。また、同構想は将来的に他の域内諸国の参加にも開かれたものである。
4. 記者の「今回の構想は見通しの立たないEU加盟に替わるものか」との質問に対し、ダーヴトオウル外相はこれを否定し、「本構想はEU加盟と矛盾せずいかなる意味でもEU加盟の代替案ではない。トルコのEUへのコミットメントに変更はなく、トルコのEU正式加盟の意思は確固としたものだ。EU加盟プロセスはトルコが他の地域との関係を発展させるための障害ではあり得ないし、トルコのEU加盟が実現したときには、こうしたトルコの多角的協力関係はEUにとっても裨益するものとなろう」と述べた。